

公表 事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		児童デイサービスいとかの杜					公表日 令和 7 年 2 月 18 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	2	夏休み・冬休み・土曜日は、児童と放デイが別室で活動できるように児童発達支援室、学習室、プレイルームを活用し、交流の時間帯と集団療育・個別療育の用途に合わせて過ごす場所の移動をしている。	一人一人、個別に机と椅子がある環境が望ましい		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		各部屋にいるこどもの人数によって、職員が適切に配置させるよう人数基準を設けている。その基準を下回るときには、事務室にSOSを出せる環境にして			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	3	部屋の表示が文字だけになってしまっているため、イラスト付きのプレートを用意したいと思う。	今後も尚一層改善を目指します。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	3		掃除の分担通りにいかない日もあり、清掃と戸締りチェックが疎かになった時期もあった。静と動の活動に合わせて空間を分けている。集団療育の場所に玩具があるので集中できない。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	4	カームダウン室と個別支援室が一緒になってしまっていたため、別々の空間を設定することにしました。	個別の部屋へは鍵を掛けて入るようにしており、自由に入れないようにしている。激しく泣いたりパニックになったときには支援員と一緒に入るようにしている。カームダウン室には鍵はないため、出入りしやすいが、ふざけて遊びに入ることも多いため、環境を整備したい。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	3	TODOリストを共有し、職員会議で優先順位の高いものから話題に出せるように改善した。	時間の許す限り情報共有をするようにはしているが今後一層改善の余地がある。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	オリジナルのアンケートを年に1回実施し、利用児童や保護者の満足度を総合的に評価し、意見を職員で共有し、改善につながるよう努力したいと考えている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		週に1回のパートミーティング、火曜日の午後には職員会議を設け、普段から業務の引継ぎなども打合せ時に行っているため、課題の早期発見と早期改善に努めている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	6	第三者委員による訪問・質疑応答はあるものの、評価をいただくことまでできていない。外部評価の評価基準を調べるなどして業務改善につなげていきたい。	定期的には行っていないことが課題である。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	2	研修スケジュールを年ごとに作成し、新しい職員への研修も内容を定め、入社半年以内に受けるようにしている。ただし、パート職員は他の職種と兼務している方もいることから、研修を受ける機会が少ない職員もいるため、法人内でのパートミーティングという毎週の振り返りを通して指導を行っている。	外部研修はできるだけ受けるように調整しているが、内部研修は時間調整が現時点では調整できておらず、課題である。		
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	1	支援プログラムはHPにて11月に公開している。おたよりにHPのQRコードを記載して保護者にも見てもらえるよう周知する。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		個別支援計画を全児童分一覧表にして、日々の療育のねらいと目標から、達成度の評価をする記録を心がけている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	2				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	2	フォーマルなアセスメントは、専門的個別支援の中で利用したり、モニタリングの時期に達成度を評価するようにしている。事業所では、インフォーマルなアセスメントを重視し、観察や気持ちの変化に着目し、一直線の成長ではなく、成長に伴う新たな課題を共有し、日々の療育支援の手法にもアレンジを繰り返している。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		課外活動、年間の支援プログラムを年間行事予定表から立案し、日々の体験プログラムは複数の常勤職員で立案している。その他、余暇活動の提供にはまだ改良の余地がある。			

な 支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	同様のプログラムにおいても、まったく同じにはならないように、個々の特性や状態に応じてレベルの工夫や子ども主体にするなど工夫はしている。しかし、高学年になると音楽・造形・運動の内容を低学年にレベルを合わせているとやる楽しさを感じにくく、療育の意義もずれてしまうと感じつつある。今後の取り組み方針としては、高学年が低学年の療育内容とは別に、主体的な活動をメインとしていけるよう、職員体制や線引きをしていきたいと考えている。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		いとかタイム、体験プログラム、自由活動は集団活動としているが、個に応じて別室で別のねらいをもって個別活動を入れることもある。また、専門的実施計画をもとに、30分の個別支援を計画に沿って行うようにしたい。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		支援の内容についての確認を細かくする時間はとれていない。一日の流れ、役割分担「リーダー、サブ、送迎、宿題サポート、保護者LINE、支援記録、業務日誌」はあらかじめ前日にシミュレーションしながら決めている。体験プログラムのねらいは支援前に全職員確認できるようにしている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		常勤職員は支援後必ず振り返りの会話も密にしながら記録をとっている。パート職員も気づいた点等は朝のミーティングや週1回のパートミーティングで共有し、ミーティングに出られない職員にも内容が共有されるようにグループLINEで共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		日々の個別の支援記録は徹底している。専門的支援の担当が一人のため、支援の検証・改善が難しいと感じている。今後の方向性としては、常勤職員が専門支援を実施していけるようにパート職員の増員を含め、人員配置や役割分担を来年度には整えていきたい。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1		サービス担当者会議はお声かけがあれば参加したいと考えているが、電話等でやりとりすることが多い。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1		子ども園・学校との連携に努めてまいります。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	3		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	4		
	32	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	6	2	夏休みや土曜日の利用時には、近隣の施設を見学することもあるが、幼児が普段通っている園の行事等の交流は事業所の職員配置の関係から難しい。小学生のお兄さんお姉さんとの交流や、子ども食堂への参加の機会を定期的に企画している。	
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	1	家族支援として、親子遠足や、お祭りでの事業所開放を通して、ご家族と職員の交流の機会を設け、LINEを通じて普段の子どもの様子や成長を密にお知らせして下さるご家庭もあり、共通理解を図っていきたいと考えている。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1		ベアトレは事業所では行ってないが、児発管のモニタリング時の面談で今後取り入れていく方針である。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	1		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	1	保護者さまからは必ずご意向を伺っている。また、利用児童ご本人から何う事が出来る場合は本人から伺い、ご本人から意向を伺う事のできない場合は、モニタリング時や個別支援計画書をお渡しする際に再度保護者さまにご意向を伺っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	5	保護者同士の交流の機会を設けてはいるが、父母の会は保護者からの要望が上がっていないと捉えている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	1	LINEで質問・相談をいつでも受けられるようにし、事業所が休みの場合にはスマホへの自動転送により急を要する申し入れに対応することもある。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		おたよりには支援プログラムのカレンダー、連絡先を必ず載せている。HPの情報更新をしたことを周知することや、事業所からの重要なお知らせは、LINEでの一斉送信も使っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	1	個人情報の事前アンケートを実施し、その内容に基づいて扱うように留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		直接お話をするだけでなく、内容によっては電話でお伝えする、写真や文字で入れておくなど、保護者の仕事の都合等にあわせて連絡手段を使い分けるように留意している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	1	地域住民を招待するまでは行ったことはなく、利用児童の友達や姉妹兄弟が、行事等でイベント参加することもある。	安全管理の観点から招待はしない方針である。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	5	事業所内で掲示しているが、HPでの周知も行いたい。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	5		BCP策定後、備蓄の備えをし、職員への研修を行っているが、救出訓練までは行ったことはない。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	2		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	児童発達支援の利用児童に食事を提供することはないが、アレルギー調査は行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	1	7		緊急時対応（震災、防犯等）マニュアルはあったが、安全計画（事業所内の安全点検の仕組み等）は作成中、2月中に完成予定です。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	6		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	2	てんかん発作時等の安全対策、行動マニュアルを作成した。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	3	虐待防止マニュアルを見直しし、改正を行った。来年度は第三者委員にも入っていただくよう、計画していく。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	2		個別支援計画に身体拘束について承諾の覧はあるが、どのような身体拘束を行うかの具体的な方法を記載はしていない。